



三菱総合研究所シンクタンク部門
先進技術センター主席研究員
新田 英之(あらた・ひでゆき)



仲村 巖(なかむら・いわお)
仲村 巖(なかむら・いわお)

那覇市出身。ラ・サール学園(鹿児島市)で
中学高校を過ごし、2002年に東京大学工
学部電気工学科卒業後、08年に同大学院
工学系研究科電気工学専攻で博士課程を
修了。大学院在学中からキューリー研究
所(仏)、ハーバード研究所(米)、日本学
術振興会をはじめ、国内外のさまざまな
研究機関で学術研究を行う。その後は公
的機関や民間企業で先端技術の調査研
究に携わる。22年より現職。

那覇市出身。都立日比谷高校を経て東京
大学工学部を卒業後、1966年に日産自動
車に入社。取締役、上席常務、常務取締
役を経て2002年に日産ディーゼル工業
(現・UDトラック)の代表取締役社長に
就任(〜07年)。巨額の負債を抱えていた
同社を”人材、の活用で見事に再建させ
る。13年から20年4月までマブチモ
ーターの社外取締役としても活躍。2023
年に沖縄県功労者表彰(一般篤行部門)。



記念の盾と賞金目録を手にする、仲村氏(左)と新田氏



授賞式前に学長室を表敬訪問。(左から)仲村敦子氏(仲村氏夫人)、仲村氏、新田氏、西田睦琉球大学学長、福治友英琉球大学副学長、飯塚悟ロッキーチャレンジ基金事務局長

外界から沖縄を俯瞰する

第15回 ロッキーチャレンジ賞に新田英之氏



Rocky
Challenge Award
since 2010
外界志向・志・挑戦

ロッキーチャレンジ賞について

教育・学問・経済・実業・創業等の分野で「外界志向」「志」「チャレンジ精神」を発揮し、沖縄の若い人材の模範となるグループまたは個人に毎年1回授賞し、賞金として100万円を贈呈する。主宰は仲村 巖(仲村 巖代表、2010年設立)。

これまでの受賞者(カッコ内は受賞時の肩書)

- 第1回 県立南部工業高校ならびに同校の飯塚悟教諭
- 第2回 島田 賢也(広島大学放射光科学研究センター教授)
- 第3回 新垣 尚子(国連ニューヨーク本部人間問題調整室緊急人道支援基金調整課長)
- 第4回 瀬名波 出(琉球大学工学部准教授)
- 第5回 比屋根 隆(株式会社レキサス代表)
- 第6回 新里 宙也(沖縄科学技術大学院大学マリンゲノミクスユニットグループリーダー)
- 第7回 嘉数 悠子(国立天文台ハワイ観測所アウトリーチスペシャリスト)
- 第8回 宮里 大八(琉球大学地域連携推進機構特命准教授)
- 第9回 玉城 絵美(早稲田大学創造理工学研究科准教授・H2L株式会社創業者)
- 第10回 大嶺 未来(ピアニスト)
- 第11回 金城 さくら(カリフォルニア大学サンフランシスコ校麻酔科講座臨床教授)
- 第12回 嘉数 真理子(特定非営利活動法人ジャパンハートこども医療センター小児科部長)
- 第13回 上間 壽壽(株式会社上間フードアンドライフ代表取締役)
- 第14回 福富 健仁(株式会社トマス技術研究所代表取締役)
- 第15回 新田 英之(三菱総合研究所先進技術センター主席研究員)

「第15回ロッキーチャレンジ賞」(仲村 巖チャレンジ基金主宰)の授賞式が11月1日、琉球大学が主催する「第22回琉大未来共創フォーラム」の席上で行われた。今回の受賞者は、那覇市出身の新田英之氏。新田氏は三菱総合研究所シンクタンク部門の先進技術センターで、主席研究員として人と機械/AIの接点に関わる領域を中心に、生体情報や非言語情報の利活用などの研究に従事している。

授賞式では、主宰の仲村氏が同賞の設立経緯について、14年前の平啓介琉球大学元副学長(2021年3月死去)とのやりとりを紹介。当時日産ディーゼル工業の社長だった仲村氏は平氏と「沖縄の若

者のロールモデルとなる超一流の人材育成のための仕組みづくり」について議論を深め「実現には資金が必要だから君の退職金を充てよう」と平氏が提案したという。「ロッキーチャレンジ賞はそれがきっかけで実現した」と当時を振り返った。

新田氏は「今回の受賞は身に余る光栄で、これまで支援いただいた恩師、同僚、友人、親族そしてさまざまな機会に応援の言葉をいただいた多くの沖縄の方々を支えられての結果であると感じる。あらためて基金関係者およびこれまで支援いただいた多くの方々にお礼を申し上げる」と謝辞を述べた。

授賞式後の琉大未来共創フォーラムでは、新田氏が「外界から沖縄を俯瞰する」のテーマで記念講演を行った。科学技術を大きな軸として、複数の分野で日・仏・米の3カ国で産官学の3つのセクターに携わっている新田氏は「沖縄の外にいて、直接沖縄から見えやすい貢献をするのはなかなか難しいこと。世界のどこにいても、いつか沖縄のためにと考えている。これまで大切にしてきたマインドや生き方などが沖縄の方々にながしかの影響を与え、それが沖縄への貢献となればこれ以上の喜びはない」と話した。



ロッキーチャレンジ賞
の公式HP